

発行

(特活)CODE海外災害援助市民センター
〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
TEL: 078-578-7744 FAX: 078-574-0702

E-mail: info@code-jp.org

HP URL: <http://www.code-jp.org/>

郵便振替: 00930-0-330579

from KOBÉ

25. Dec. 2017

to the world

チベット人女性の踊り(2010年青海省地震被災地より)

今号の内容

- P.1 巻頭言
- P.2~3 特集:NGO ことはじめ
「NGO とは」開催しました
- P.4~5 CODE 未来基金 NEWS
- P.6~7 月☆イチシリーズ 食と国際協力
- P.8~9 現行プロジェクトの報告
- P.10 イベント案内、お知らせ
- P.11 CODE 役員・スタッフ活動記録
- P.12 寄付者ご芳名

巻頭言 「CODE とコープこうべ災害救援支援基金(ハート基金)」 (CODE 理事 岡田卓巳)

このたび、6月に山添令子の後任としてCODEの理事に就任いたしましたコープこうべの岡田卓巳と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

コープこうべは現在、兵庫県全域と大阪府北部、京都府京丹後市をエリアとして活動している生活協同組合です。社会運動家賀川豊彦の指導の下、1921年に神戸購買組合、灘購買組合の設立をルーツとし、2021年には創立100周年を迎えます。

コープこうべは神戸の地において1938年の阪神大水害、1945年の神戸大空襲、と幾多の困難を乗り越えてきました。1995年、阪神淡路大震災ではコープこうべも被災し、全国から多くの支援をいただきました。

阪神・淡路大震災で経験した「必要とする支援をすぐに届ける」対応が難しいことを実感した経験から、基金として募金を事前にプールし国内外で発生した自然災害に迅速に対応するという目的でコープこうべ災害緊急支援基金(ハート基金)を1999年に設立しました。

恩返しの意味も込めてその後被災地支援に取り組む中で緊急募金だけではなく、組合員からの「被災地に一刻でも早く届けたい」との想いを実現させた基金は設立から2016年10月末までの拠出金額が5,589万となり、これまで多くの被災地への支援に役立ててことができました。直近では7月に発生した九州北部豪雨災害へも拠出をいたしました。

特徴として自主的な運営を行うために組合員から構成される「基金運営委員会」が基金を運営管理していること、震災の体験と今まで受けた支援への感謝を忘れないための募金に取り組み、基金を育てること、初期救援を中心に被災者・被災地を支援すること、確実に届けられるルートを確保して支援することを考え方の視点として取り組んでいます。組合員からお預かりした募金を有効に活用していただける連携先としてCODEは大変心強い存在です。

CODEのこころである「長い目で復興を支援」「現地の内発性を尊重」「支援の届きにくい人へ」「最後のひとりまで」については、これまでコープこうべが支援を進めていくうえで、被災地や被災者に対する思いは共通であり、考え方は同じであるということを再認識しました。

同じ神戸の地で生まれたCODEとコープこうべ、これからも幾多の試練が待ち構えているかもしれません。協同と助け合いの輪を地域に広げていくことができるよう、地域のパートナーとして共に手を携えていきましょう。

(コープこうべ地域活動推進部 統括 岡田卓巳)



写真:アフガニスタンの少年と

特集

NGO ことはじめ「NGO とは？」 開催レポート

10月13日にNGO ことはじめ『NGO とは？』を開催しました。阪神・淡路大震災をきっかけに国内外での支援活動を行ってきたCODE理事の村井雅清を講師に、ソーシャルビジネスをはじめ様々なスタイルの社会貢献が注目されている今「NGO の根幹とは何か？」ということテーマに学びました。村井理事にお話しいただいた、NGO の根幹とは何なのかということ報告します。(CODE インターン高橋大希)

NGO と NPO の違いとは 何なのか？

NGO と NPO の違いは一体何なのでしょうか。NGO とは Non-Governmental Organization(非政府組織)、NPO とは Non-Profit Organization(非営利組織)の略称です。現在では、国際協力活動を行う市民団体を NGO、日本の中の問題に取り組む団体を NPO と呼んでいる人たちも少なくありません。22年前に阪神淡路大震災があり、ボランティアの活躍が非常に注目されました。これを機に、1998 年に特定非営利活動促進法(通称 NPO 法)というものが出来ました。それまでは NGO という言葉が使われていたのに、この法律ができてから NPO という名前が積極的に使われるようになったというのが、現状なのではないでしょうか。

講師プロフィール:村井雅清

震災後「ちびくろ救援ぐるうぷ」(現「ぐるうぷ“えん”」)事務局長(後、代表)として救援活動に取り組む。一方、「阪神大震災地元 NGO 救援連絡会議」の分科会から独立した「阪神・淡路大震災『仮設』支援 NGO 連絡会」(現:被災地 NGO 協働センター)の代表となり現在に至る。また、震災後、国内だけでなく CODE 事務局長(～2012 年度)として海外の復興支援活動に取り組んだ。現在は CODE 理事。

行政との関係

政府は特定非営利活動促進法を公布して社会公益活動の活性化を促しているのですが、現実には資金不足のため行政の補助金を利用している団体が 42%あり、団体の 85%は今後行政の補助金を受け入れたいと言っています(内閣府国民局 2007)。つまり、行政のお金に依存しなければやっていけないと認識している NPO が多いのです。資金源を公的機関に求めている NPO の現状を田中弥生さん(日本 NPO 学会顧問)は“行政の下請け化”と言って、行政や政府の下請けになることが本来のミッションなのかと問うています。政府、企業からどれだけ独立性を保つかによって NPO の自立が果たされるのではないかと考えさせられました。

ボランティア元年とは何なのか

「ボランティアは社会を変える」と語り続けている村井理事は阪神・淡路大震災から 15 年目くらいの時に、それまでの活動を振り返り、ボランティアが社会にとってどのような存在なのかにこだわって活動してきたと思ったそうです。それは、災害を受けて社会は変わっていかねばいけない、そのためにはボランティアな行為や言説が重要なのではないかと考えたからです。“ボランティア”元年と称賛されたことはよかったのですが、ボランティアの存在や重要性について十分に考えられたかといえば、十分ではありません。ではなぜ、“ボランティア元年”と言ったのか、考え続けなければいけません。

ボランティアは何でもありや

「ボランティア何でもありや」それは、個性の違う一人ひとりのボランティアが一人ひとりと寄り添っていく、100 人いたら 100 通りのボランティアがあります。そういう意味で「何でもありや」の多様なボランティアになります。ボランティアの自由を保証すれば「何でもありや」になるということです。本当に自由にボランティアが被災地で活動できるような環境があれば、実に多彩な活動が展開されるでしょう。しかし、それを縛っていけばいくほど、画一的な活動しか生まれてこないということになります。自由で多様なアイデアが出せる環境というものが必要なのです。



草地さん(左手前)と村井理事(右奥)

言われなくてもするが、 言われてもしない

CODE の前身であるこれまでの災害の各救援委員会の委員長を務められていた牧師の草地賢一さん(故 2001 年)が、「言われなくてもするが、言われてもしない」という言葉を使って、神戸でとても有名になりました。県や行政のトップ、権力者などの「官」に言われなくてもするが、言われてもしないという意味です。実際の言葉は、草地さんの親友の牧師が使っていた言葉だそうです。その牧師が、「ある時、保育所に元気がない子がいた。なんで元気がないのか聞いてみると、お母さんが忙しくて朝ご飯を食べさせていないということが分かった。そこでその牧師は朝ご飯を食べさせた」。でも朝ごはんを提供することは、神戸市のルールからは規定外のことです。でも、困っている子供が目の前にいるから対応したわけです。つまり、「官に言われなくてもするが、言われてもしない」という精神がそこにあるわけです。

NGO のミッションとは

「民主主義では、最後のひとは必ず切り捨てられる。このひとりに寄り添うのが NGO なんだ」という根本的な論理を言っているのが CODE の代表理事をされている芹田健太郎氏です。最後のひとりまで、一人ひとりに目を配り、寄り添うということが NGO のミッションなのです。そこがズレてくると NGO の在り方から遠のいていくことになってしまいます。今の社会を見渡すと、鳥の目であまねく平等という言い方しかせず、虫の目で地を這いつくばるようにして弱者に寄り添っていく、そういう人たちが少なくなってきたといえるのかもしれない。



パキスタンの女性と

この寺子屋に参加して

冒頭にも書いたようにソーシャルビジネスをはじめ、企業の CSR 事業、学生団体など現在様々な形の社会貢献活動がある。結果的に社会のためになるのであれば、関わる形はどんな形でもいいのではないかと、そう考える人もいるだろう。その中で、非政治ではなく非政府ということにこだわってきた村井理事の「NGO とは？」と

いうお話は、NGO でインターンをしている僕にとって考えさせられる内容だった。どの分野にもそれぞれの役割がある。その中で僕自身もどの立ち位置が自分に合っているのか考え続けたいと思う。

(高橋大希)

CODE 未来基金 NEWS

CODE 未来基金が 2014 年 12 月にスタートし、来年で 4 年目を迎えます。2016 年からは NGO や災害救援に興味を持つ若者が各分野について学ぶ機会をつくる CODE 未来基金プログラムの募集を開始しました。NGO インターンシップ、海外フィールドワーク、セミナーの各プログラムでこれまでにのべ 9 名の若者が未来基金を活用して NGO や国際協力への学びを深めています。2 月には第 2

回サポーターミーティングを開催し、サポーターと CODE 未来基金のこれからについて語り合います。

2017 年度後期 CODE 未来基金プログラムでは、今年 10 月からインターンシッププログラムで愛媛大学の高橋大希さんが、フィールドワークでは神戸大学の西本楓さんが合格し、未来基金を利用して自身の将来への新たな一歩を踏み出そうとしています。(上野智彦)

インターンが来ました

冒頭でもご紹介したように 2017 年度後期募集 CODE インターンシッププログラムに愛媛大学 3 回生の高橋大希さんが応募し、合格しました。高橋さんは今年 10 月から翌年 3 月までの半年間、CODE 海外災害

援助市民センターでインターンとして働き、NGO や災害救援について学んでいきます。インターン開始から 1 カ月半が経過した高橋さんの感想とこれからの抱負をご紹介します。



感想と抱負 (CODE 未来基金インターン・高橋大希)

僕がこの文章を書いている今、CODE でインターンを始めてから 1 か月半が経とうとしています。そこで、この 1 か月半のインターンの感想とこれからの抱負を書きたいと思います。

これまでのインターンの感想

僕はこのインターンの最初の抱負に、NGO で働くといっても仕事の内容や必要なスキルがあまりイメージできない、職業として選択するためにも NGO の世界について仕事についてもっと知りたいという風に書きました。日頃の業務としては日々パソコンの前で、イベントの準備をしたり、

情報を発信したり、講演のテープ起こしをしたり、様々なことをしています。そういった日々の業務や、他の団体の方と話していて思ったことがあります。インターンを始める前はテレビなどのメディアを通して NGO や NPO の業界の人を見る機会が多く、特別な仕事で特別な人たちが働いているという印象を抱いていました。僕は企業や他の団体などで働いたことはないので比較することはできませんが、1 か月半の業務を通して感じることは決して特別な世界ではないということです。自分の中で勝手に NGO や NPO

を特別なものであると決めつけて、特別なスキルや、思想が必要だと決めつけていました。もちろん団体の目指すものや形としては少し特別かもしれませんが、日々の業務や他の団体のスタッフの方たちと話してみて、今は自分から遠くの世界にあるものでなく、企業で働く、行政で働く、そういった選択肢とともに NGO・NPO で働くという感覚があります。そういう意味で、NGO や NPO という仕事は決して特別なものではなく、僕らの身近な所にあるものなのかなと今は思っています。

今後の抱負

そして今後の抱負としては、仕事の流れなどに慣れてきて、自分がインターン中に取り組んでみたいこ

とを考える余裕なども増えてきました。もっと自分発信のアイデアも出しながら、仕事に取り組んでいきたいと思っています。あと約 4 か月

ほどですが、自分にできる最大限のことが出来るようがんばります。よろしくお願いします！

2017 年度後期フィールドワークの実施が決まりました

2017 年度後期募集では神戸大学 2 回生の西本楓さんが四川省地震被災地でのフィールドワークプログラムに応募し、選考の結果合格しました。西本さんは 2016 年のフィリピンフィールドワークにも参加し、今回は企画者として再び未来基金プログラ

ムに携わっています。「食」をテーマとしたプログラムを企画しています。日本での事前研修を行い、来年 3 月に CODE が支援を続ける光明村をはじめ四川省を訪れ、同行するメンバーとともに研修を実施する予定です。



フィリピンでマット編みを教えてもらう西本さん(右)

今後の予定

CODE 未来基金では年度末から 2018 年度に向けて様々な動きを展開していきます。来年 4 月から 9 月に実施する 2018 年度前期 CODE 未来基金プログラムの募集を行い、若者が新たに NGO、国際協力への第一歩を踏み出します。また先にご紹介していますように来年 2 月には第 2 回サポーターミーティングを実施し、未来基金を支えていくサポーターと CODE 未来基

金のかかわり方を見直していきます。3 月には CODE でインターンとして働く高橋大希さんや四川省のフィールドを訪れる西本楓さんによる活動報告などを中心とした 2017 年度 CODE 未来基金報告会を実施します。引き続き CODE 未来基金の活動にご注目いただけますようお願いいたします。

寄付について

フィリピンでのフィールドワーク以外にも、昨年行った「日中 NGO ボランティア研修交流」や毎年行っているインターンシップ事業からも NGO で働くことを考える若者が生まれています。若者の未来をつくる CODE 未来基金は多くの寄付によって成り立っています。皆さまには CODE 未来基金へのご寄付もお願いしています。どうぞよろしくおねがいします。詳しくはホームページもご覧ください。



サポーターミーティングで語り合う若者

未来基金サポーター:

未来基金と一緒に作る、セミナーや広報に積極的にご参加いただける「サポーター」を募集しています。
一口(年間):1000 円 ※複数口のお申し込みも可能です。

未来基金へのご寄付:

個人・一口:10,000 円
NGO、団体・一口:30,000 円
企業・一口:50,000 円
※複数口のお申し込みも可能です。

月☆イチシリーズ 食と国際協力(第32回～第35回)

第32回

9.11から15年

～“れーずん”を食べながら

アフガニスタンの「いま」を考える～

語り手：村井 雅清 (CODE 理事)



第32回のテーマはCODEのプロジェクトで15年に渡り支援を行っているアフガニスタンです。前CODE事務局長で、アフガニスタンを何度も訪れたこともある村井雅清(CODE 理事)に語っていただきました。

CODEはアフガニスタンを10年以上にわたり支援を続けています。今回の食と国際協力ではアフガニスタンの現在、そして2003年から続けているぶどうプロジェクトの背景、アフガニス

タンの食文化について語られました。1994年にはアフガニスタンの国土の98%が破壊されたとまで言われ、混沌とした状況から長い期間が経ちましたが、未だにアフガニスタンの自立が見えません。村井理事は普通の暮らしが脅かされているのがアフガニスタンの現状だと語ります。「バザールに並ぶ食料品の色が多彩なら、その年は比較的豊か」というように、バザールでは多種多様な食材が取り引きされ、

アフガニスタンが豊かな国であったことが伺えます。

今回の食はアフガニスタンれーずん入りのパラオ(アフガニスタン風ピラフ)です。ぶどうファミリーが作ったレーズンを使い本場の味に近づけました。参加者の方々はレーズンを通してアフガニスタンの味を楽しんでいました。

第33回

ネパールのハニーハンター

～大地に樹を植え、心に花を咲かせる～

語り手：米川 安寿さん (ハニールネッサンス代表)



第33回のテーマはネパールです。2015年4月25日、ネパール中部をM7.8の地震が襲い約9000名の方が亡くなりました。

今回の食と国際協力では、ネパール人の父と日本人の母を持ち、はちみつ採取や樹を植える事でネパールの人たちの心に花を咲かせている米川安寿さんが自身の「ハニールネッサンス」の活動やはちみつの魅力に

ついて語りました。

ハチは植物の受粉を助け、さらに米川さん曰く完璧な食べ物というハチミツを生み出します。地球史に花が登場した1億4000年前から継続して行われているこの活動で花や緑を守っています。しかし近年、良いハチミツを生むチウリの木が減ってきています。米川さんは2011年からネパールでの植樹活動を行い、ハチと人間の

共存に挑戦しています。

今回の食はモモ(ネパールの餃子)とネパール、のハチミツです。ネパールの伝統を味わうことができました。それぞれの土地の花で作られたハチミツは甘さやコク、酸味、クセなどがそれぞれ違います。一括りにできないハチミツという食べ物の多様さに驚かされました。



第34回

バングラデシュでチャイと出会って

～NGOに35年関わって～

語り手：榛木 恵子 (CODE 理事)

第34回のテーマはバングラデシュです。語り手の榛木恵子理事はCODE理事で、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS)の活動のためバングラデシュで2か月間暮らしていたことがあります。

榛木理事が生活していた1996年当時と最後に訪れた2012年ではバングラデシュは大きく変わっていたようです。イスラムの国であるバングラデシュで女性が街へと気軽に買い物に出かけ

る様子や女性の写真を使った看板を見かけるなどの変化があります。一方でダッカ以外に住む場所が少ない中で、経済成長を続ける中でも貧しい人はより貧しい生活を送らざるを得ない実情があるそうです。その他にもJOCS(日本キリスト教海外医療協力会)や関西NGO協議会など榛木理事が関わってきたNGOの紹介もしていただき、CODE以外のNGOの活動について学ぶ機会となりました。

今回の食は榛木理事がバングラデシュで作り方を学んだお手製チャイとバングラデシュカレーです。榛木理事のお話の中で現地の方に教わったチャイの作り方やミスティと呼ばれる甘いお菓子を好むバングラデシュの方の食文化もご紹介いただきました。香辛料がしっかりと効いたチャイはカレーとも合い、何度でも味わいたくなる美味しさでした。

第35回

イランってどんな国

～実はよく知らない？イランの魅力～

語り手：斉藤 容子さん (くらし研究所ままどころ代表)



第35回のテーマはイランです。2003年12月26日、イランの南東部を震源地とするM6.7の大きな地震が発生し、約2万7000人の方が犠牲になりました。CODEは、幼稚園支援、「しあわせ運べるように」を使った防災教育、コミュニティセンター建設、耐震実験などの支援を行ってきました。

今回の語り手は、当時、CODEスタッフとしてイランを何度も訪れている斉藤容子さん(くらし研究所ままどころ代

表)です。バム地震の際のイランでの活動やイランを訪れて感じたイランの文化や気風についてのお話がありました。バム版「しあわせ運べるように」が映像でご紹介され、子どもたちが歌うまでのエピソードも語られました。イランの食文化として、独特のヨーグルト飲料やケバブ、日本ではなかなか見ることが出来ないナツメヤシ=デーツが紹介されました。また日本でお馴染みのフルーツポンチやゆずポンの

名前の由来はペルシャ語の「ポン=5」だという意外なつながりに参加者も驚いた様子でした。

今回の食はイランの家庭料理、キャンケバデンジュン(ナスのトマト煮込み)です。イラン人が好むバターとトマトの風味が合い、サフランライスがよく進みます。

(※デーツの木はCODEの事務所の庭で10年余りも、スクスクと育っています。)

現行プロジェクトの報告

連続するメキシコ地震救援プロジェクト (2017~)

メキシコで連続して地震が発生

9月8日にメキシコ南部沖で、9月19日にメキシコ中部で大きな地震が連続して発生しました。メキシコ国内では1985年に9000名以上が亡くなったメキシコ地震以来最大規模の地震でした。2つの地震で多くの建物が倒壊し、8日に発生した地震では98名、21日の地震では363名の方が亡くなりました。

南部地域はメキシコでも生活困難者が多い地域で、地震で家を失った方の中には被災前から日々の生活を送ることに精いっぱい、家の再建が厳しい被災者も多くいます。その後、中部での地震が起こったことで注目度が一気に下がってしまい、南部の

被災地に支援がいけないという状況が生まれました。今回の地震では発災直後から被災者同士助け合おうという流れが住民の間に生まれました。多くの人々が激しく被災した現場に向かい、特に若者はガレキの生き埋めになった被災者を救助するために奮闘しました。この地震で倒壊した建物から救助された方の多くは民間人によって救われ、その数は軍により救助された人よりも多かったそうです。(この現象は阪神・淡路大震災直後のレスキュー活動と類似しています。)

CODEの動き

CODE事務局は発災直後より情報収

集を行ってきました。9月10日、芹田代表理事との協議の上、59回目となる救援プロジェクトを開始しました。20日には中部で発生した地震を受けて「連続するメキシコ地震救援」となりました。これまで中南米での災害救援プロジェクトにおいて協力してきたクワテモック・アバルカさん(メキシコシティ在住)に連絡を取り、メキシコからの情報を送っていただきました。クワテモックさんは10月にはメキシコシティ近隣の被災地域や南部の被災地へ入り、被災者への食糧配給などの活動を開始しました。CODEは集まったご寄付を活用してクワテモックさんの活動を支援しています。

(上野智彦)

メキシコ沖地震

発生日時:現地時間 2017年9月7日 23時49分
(日本時間 9月8日 13時49分)

地震規模:M8.2

被災地域:オアハカ州、チアパス州などメキシコ南部地域

被害:死者98名 倒壊家屋約15000棟

メキシコ中部地震

発生日時:現地時間 2017年9月19日 13時14分
(日本時間 9月20日 3時14分)

地震規模:M7.1

被災地域:メキシコシティ、プエブラ州などメキシコ中部地域

被害:死者363名 負傷者4683名

フィリピン台風 Haiyan 救援プロジェクト (2013~)

CODEは、2013年にフィリピン中部を襲った史上最大級の台風 Haiyan の復興支援を行っています。被災地であるセブ島北部やバンタヤン島の6つの地域(バラングイ)で漁業支援プロジェクトとして、モーターボートや漁網を提供してきました。2016年からは第二段階としてバンタヤン島で女性の収入向上と地域の防災リーダーの育成を北陸学院大学の主導による JICA の草の根技術協力事業を実施しており、CODEはサポートしています。2017年8月に専門家派遣としてバンタヤン島を再訪した際の様子です。



住民自らがリソースの説明し、全体で共有する。

バンタヤン島の2つのバラングイ Poooc と Okoy で、女性の収入向上に向けたリソースマッピングのワークショップを行いました。各バラングイのアソシエーションのメンバー約40人を対象に現地の NGO、FIDEC の Jojo さんのリー



地図にリソースを書き込んでいく住民たち

ドで5種類のリソース(人的資源、自然資源、物的資源、社会資源、金融資源)を5グループに分けて行いました。地域の地図に各グループがリソースを落とし込んでいく。慣れない作業かと思いましたが、誰に言われるでもなく思い思いに動物や植物の絵を描き始め、大いに盛り上がり、地域に絵や英語の上手な女性がいることも新たな発見でした。その後、各グループのリーダーが皆の前でリソースを説明し、全体で情報共有をはかりました。このワークでは、地域のリソースを出す事ができましたが、そのリソースの活用方法まで考えるにはいたりませんでした。その中から、まずは石鹸やロウソクを作ってみる事から始めてみようということになりました。今回の2つのバラングイでのプロジェクトは、「PAHIYUM」(セブアノ語で笑顔の意味)プロジェクトと名付けられました。今後も CODE は住民たちの動きをサポートしていきます。(吉椿雅道)

ジャワ島中部地震救援プロジェクト (2006~)

2006年5月にインドネシア、ジャワ島中部で発生した M6.8 の地震後、CODE は、被災地であるバントゥール県で現地の建築家のエコ・プロワットさんをカウンターパートに住宅再建を行いました。その後、2007年よりグヌンキドル県ナワンガン集落で「呼び水プロジェクト」を実施し、住民自らが水道管を施設しました。2008年からは神戸学院大学現代社会学部の浅野壽夫教授が、毎年夏(2009年を除く)に学生のフィールド研修で現地を訪問し、住民たちと交流しています。今年度で大学を退官される浅野教授に同行して、現地をモニタリングしてきました。



ナワンガンの住民と神戸学院大学の学生たち

来年で呼び水プロジェクト開始から10年になります。ナワンガン集落の水道組合は、水道料金の一部を着実に積み立て、その資金を活用して住民たちにヤギ銀行などのマイクロファイナンス(小口融資)を行っています。また、来年はこの資金を使って各家庭に水道パイプとメーターを設置することを計画しているそうです。

水道組合は、CODE の支援を機にゴトンロヨン(相互扶助)の精神で着実に自立の道を歩んでいることを実感する事ができました。(吉椿雅道)



CODEによって施設された水道タンク

イベント案内

第 39 回食と国際協力（テーマ：中国・雲南省）

2018 年 2 月 15 日(木)、第 39 回食と国際協力「多様な雲南～日本のルーツを求めて～」を開催します。テーマは「中国・雲南省」です。CODE は 1996 年に発生した雲南省麗江地震では神戸華僑総会とともに物資支援を行いました。雲南省に十数年関わっていた吉椿雅道 CODE 事務局長を語り手に雲南省の少数民族文化や食についてお話します。今回の食は雲南省特有のコメの麺、「過橋米线」(写真)です。お気軽にご参加ください。



CODE 寺子屋 3 回シリーズ 第 3 回

この寺子屋は CODE の理事として活躍する 3 名がこれからの NGO をリードする若者に向けて、NGO の根幹は何なのか、見失ってはならないものが何なのかを伝えていくシリーズとなっています。特集でもご紹介した NGO ことはじめ「NGO とは」(講師：村井理事)に引き続き、CODE の理事 3 名の方々にそれぞれの立場から若者に向けて語っていただきます。

第 1 回 11 月 29 日(水)「NGO」は誰を代表するのか？(終了)

講師：芹田健太郎(CODE 代表理事、神戸大学名誉教授)

第 2 回 12 月 14 日(木)市民社会派はどう変化してきたか？(終了)

講師：松本誠(CODE 理事、市民まちづくり研究所所長)

第 3 回 2 月 1 日(木)NGO が災害支援をする意義は？(参加受付中)

講師：室崎益輝(CODE 副代表理事、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授)

シリーズ各回共通

場所：CODE 事務所(新開地駅より徒歩 5 分)

参加費：2500 円(食事含む) 学生 1500 円

第 2 回 CODE 未来基金サポーターミーティング

未来基金 NEWS でご紹介しましたように 2018 年 2 月 24 日(土)13 時～17 時、神戸教育会館にて第 2 回 CODE 未来基金サポーターミーティングを開催します。CODE 未来基金の活動を支える「CODE 未来基金サポーター」と事務局がいっしょになって何ができるか？若者が国際協力に、NGO に、災害支援に携わるために必要なものとは何か？この貴重な機会にぜひ多くのサポーターの方々と議論を深めていきます。

「CODE 未来基金サポーターミーティング」

日時：2018 年 2 月 24 日(土)13:00～17:00 会場：神戸市教育会館 参加費：無料

ポストカード販売 始めました！

CODE がこれまで支援をしてきたネパール、フィリピン、四川省、青海省のポストカードを作成しました。全 11 種類の中から 8 枚 1 セットを 1000 円で販売します。CODE が支援している各国の自然、文化、人の様子が伺えるポストカードとなっています。団体ウェブページ、ショッピングサイト、お電話などでご注文を受け付けています。ぜひお気軽にお求めください。会員の方には、今号の CODE Letter に特典としてポストカードを 1 枚プレゼントしています。

ショッピングサイト BASE 店舗 URL <https://code1995.thebase.in/>



スタッフ活動記録

9 月

- 1 日 神戸学院大学インドネシア研修事前説明会に参加(吉椿)
Janiss 折居さん「NGO の安全管理」についてヒアリング(村井理事、吉椿)
- 2 日～9 日 神戸学院大学インドネシア研修に同行(吉椿)
- 2 日 NGO 安全管理研修に参加(上野)
- 11 日 舞子高校環境防災科で講義(吉椿、神戸学院大学インターン生 3 名)
- 11 日～15 日 神戸学院大学大学生インターンシップ
- 12 日 神戸大学羽田さんフィリピン報告
- 14 日 第 35 回食と国際協力「イラン」(斉藤容子さん)
- 15 日 神戸学院大学インターン生へ講義(榛木理事)
CODE 理事会
- 19 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「ガイダンス」で講義(村井理事)
- 21 日 第 5 回かんさい CS ネットワークフォーラムに参加(上野)
- 26 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「阪神淡路大震災 20 年とボランティア」で講義(村井理事)
ラクバさんとネパール支援の打ち合せ(吉椿)
- 27 日 被災地 NGO 協働センター2017 年寺子屋「教育の場づくりにこだわり活動を展開する」(NPO 法人まなびと 中山迅一さん)に協力
- 24 日 夢広の会ネパール支援報告会に参加(吉椿)
- 27 日 災害看護支援機構宇都さんとハイチ支援の打ち合せ(吉椿)
- 28 日 関西 NGO 協議会理事会に出席(吉椿)

10 月

- 2 日 未来基金インターン生、高橋大希さん仕事初め
- 3 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「阪神淡路大震災以降の国内災害と東日本大震災におけるボランティア活動を振り返る」(村井理事、高橋)
2017 年度後期 CODE 未来基金プログラム選考委員会
(芹田代表、松田理事、榛木理事、西海恵都子さん、上野)
- 4 日 中国・NGO 備災センター張国遠さん来神(吉椿、上野、高橋)
- 6 日 関西 SDGs プラットフォーム設立準備会合に出席(吉椿)
- 7 日 関西 NGO 助成プログラム説明会に参加(高橋)
- 10 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「ボランティアでもできる心のケア」(村井理事、高橋)
- 12 日 関西学院大学千里国際高等学部で講演(吉椿)
- 13 日 未来基金四川フィールド研修打合せ(西本さん、吉椿)
フィリピン JICA 草の根技術協力事業打合せ(羽田さん、吉椿)
CODE 寺子屋「NGO とは？」(村井理事)
- 16 日 神戸大学、佐藤さんヒアリング(吉椿)
- 17 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「CODE 海外災害援助市民センターが担う社会貢献について」(吉椿、高橋)
- 19 日 第 36 回食と国際協力「フィリピン」(立部知保里さん)
- 20 日 神戸女子大学(NPO しゃらく)「ソーシャルビジネス実践セミナー」で講義(吉椿、高橋)
- 23 日 大阪大学吹田キャンパス、豊中キャンパスで講義(吉椿)
- 24 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「フィリピン台風の復興から学ぶ NGO の取り組み」(吉椿、上野、高橋)
- 25 日 神港橋高校、高野先生と講演会打合せ(吉椿)
- 27 日 被災地 NGO 協働センター2017 年寺子屋「被災地に飛び込み仕事として復興に貢献する」(一般社団法人 ISHINOMAKI2.0 斉藤誠太郎さん)に協力
- 30 日 関西学院大学復興制度研究所、野呂さん来所(村井理事、吉椿)
- 31 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「四川大地震から学ぶ民衆交流」(吉椿、高橋)

11 月

- 6 日 神戸大学、羽田さんとフィリピン打合せ(吉椿)
- 7 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「ハイチ地震から学ぶ」(吉椿、高橋)
ひょうご安全の日のつどいに参加(上野)
- 8 日～15 日 四川地震第 29 次派遣(吉椿)
- 8 日 まなびと中山さんとコラボ企画の打合せ(上野、高橋)
- 9 日 CODE U-35 会を開催(上野、高橋)
- 11 日 ワン・ワールド・フェスティバル for Youth ブース説明会に参加(上野)
- 14 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「アフガニスタンと開発援助」(村井理事、高橋)
神戸ソーシャルキャンパス「伝わるデザイン講座」に参加(上野、高橋)
- 15 日 関西 NGO 協議会理事会に出席(吉椿)
- 16 日 第 37 回食と国際協力「ネパール」(ニマさん、ラクバさん)
- 18 日 第 17 回 NGO スタディツアー合同説明会@大阪に参加(高橋)
- 21 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「地方分権と被災者主体、市民とは？」(松本理事、高橋)
- 24 日 2017 年神戸学院大学インターン生、山口さんと CODE レター編集ミーティング(上野、高橋)
- 25 日 JICA 関西映画鑑賞会×ネパールバンド公演会でブース出展(吉椿、高橋)
コープこうべ第 3 地区活動本部のボランティア交流会でレーズン販売
- 27 日 PHD 協会の海外研修生へ講義(吉椿、高橋)
被災地 NGO 協働センター2017 年寺子屋「僧侶として、住民として被災地に関わるとは？」(曹洞宗東禅寺副住職 鈴木隆太さん)に協力
- 27 日～12 月 2 日 JICA 草の根技術協力事業でフィリピン派遣(上野)
- 28 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「災害とジェンダー」(斉藤容子さん、高橋)
- 29 日 CODE 寺子屋 3 回シリーズ第 1 回「NGO は誰を代表するのか？」(芹田代表理事)
- 30 日 平成 30 年度青少年会館団体使用登録更新説明会に出席(高橋)

12 月

- 1 日 アイセック井村さん、四川研修打合せ(吉椿、高橋)
- 5 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「災害時における地域力と備えの大切さについて」(織田峰彦さん、村井理事、高橋)
未来基金四川フィールド研修打合せ(西本さん、吉椿)
- 8 日 被災地 NGO 協働センター2017 年寺子屋「新たな地産地消エネルギーに挑戦する」(株式会社宝塚すみれ発電 井上保子さん)に協力
- 12 日 神港橋高校「橋タウンミーティング」で講演(吉椿)
神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「アフガニスタンと農業」(村井理事、高橋)
- 14 日 CODE 寺子屋 3 回シリーズ第 2 回「市民社会はどう変化してきたか」(松本理事)
- 15 日 神戸龍谷高校グローバルコースで講演(吉椿)
- 16 日 関西 SDGs プラットフォーム設立総会・シンポジウムに出席(吉椿)
- 18 日 関西国際大学セーフティマネジメント「NGO による災害被災地支援」で講義(吉椿)
CODE 理事会
- 19 日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ「ネパール地震後の住まいの再建を通して現地の暮らしと自然との共生について学ぶ」(村井理事、上野、高橋)
- 20 日 チームひょうごネパール地震報告会で報告(吉椿、高橋)
- 21 日 第 38 回食と国際協力「フィリピン」(羽田和真さん)
- 23 日 ワンワールドフェスタ for YOUTH でブース出展(吉椿、上野、高橋)
- 27 日 大掃除
- 28 日 仕事納め

ともに CODE を創りませんか

■入会のお願い

私たちとともに CODE の活動を担っていく会員を募集しています。

【賛助会員】

個人・学生:年会費 2,000 円×1 口以上

NPO/NGO:年会費 2,000 円×1 口以上

企業・団体:年会費 10,000 円×1 口以上

ほか、正会員をご希望の場合は事務局までお問い合わせください。

■ご寄付のお願い

CODE の活動を継続するために皆さまからのご寄付を募っています。救援プロジェクトへのご寄付は 25%を上限として CODE の管理運営費に使わせていただいております。ご協力お願いいたします。

※ご寄付をいただく際には備考欄、通信欄などに用途(例「ネパール」)をご記入ください。

郵便振替

加入者名:CODE

口座番号:00930-0-330579

銀行振替

ゆうちょ銀行

支店名:〇九九店(ゼロキュウキュウ)

支店番号:099 預金種類:当座

口座番号:0330579

加入者名:CODE

■事務所での作業や翻訳、自宅でも作業可能なボランティアも募集しています。

■講演会、報告会を開催してみませんか？

あなたの住んでいる地域で開催される講演会に CODE のスタッフを講師として派遣します。お気軽にお問い合わせください。

会員・寄付者 ご芳名 (50 音順・敬称略)

2017 年 8 月 18 日～12 月 7 日

ご支援をいただきありがとうございます。8 月 18 日～12 月 7 日までの期間でのべ 34 名の方がご寄付、19 名の方に会員となっていただきました。皆さまからのご寄付、会費は大切にに使わせていただきます。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いします。

【事務局運営、各救援プロジェクト、未来基金などへのご寄付】

井上由紀子、今中麻里愛、今村雅子、浦崎なぎさ、大江良一、太田美穂、楠井和子、小泉桂子、小林孝信、小林まゆみ、源田葉子、斉藤茂樹、坂上仁志、坂本祐一、高水一成、田辺エツ、旦保立子、津田秀子、富田五男、中川章子、長澤富代、昇嶺夫、野間ひとみ、畠田敬、花田知佳、林ひさ子、日比野恵子、兵庫県尼崎小田高等学校、ヒラタタカユキ、三浦真理子、室崎益輝、目黒和子、めふコープ委員会、山本健一、吉野恵子、米川安寿

【賛助会員】(19)

飯田浩、北川昭二、小林孝信、芹田希和子、高水一成、竹代一洋、野間ひとみ、橋本成年、兵頭晴喜、古川英子、増田末知子、(有)村井新聞店、安富信、柳田邦夫、山本健一、